



市民科学の10の原則

市民科学/シチズンサイエンス（以下、市民科学と表記）は、様々な状況や分野に適用・応用できる柔軟性のある概念です。以下の宣言文は、ロンドン自然史博物館が主導する、欧州市民科学協会 (European Citizen Science Association) の検討部会「ベストプラクティス（模範的な実践）の共有と能力育成」が、同協会の多くのメンバーの意見を取り入れて作成したもので、市民科学の優れた実践の基礎となるコミュニティとしての重要原則のいくつかを示しています。

1. 市民科学のプロジェクトは、新しい知識や理解を生む科学的な活動に、市民を積極的に巻き込みます。

市民は、協力者、共同実施者または主催者としてプロジェクトに参加し、プロジェクトにとって重要な役割を果たします。

2. 市民科学のプロジェクトは正当な科学的成果をもたらします。

例えば、研究上の問いに対する答えや、保全活動や管理上の意志決定、環境政策への重要な示唆が得られます。

3. 職業科学者も市民科学者も、市民科学への参加を通じて得られるものがあります。

例えば、研究成果の公開、学習機会、個人的な楽しみ、社会的利益などが挙げられます。他にも、地域レベル、国レベル、国際レベルの問題の解決に必要な科学的証拠に貢献することによる充実感を得ることができます。さらにこれらを通じて、政策に影響を与える可能性があります。

4. 市民科学者は、希望に応じて、科学の様々なプロセスに参加することができます。

その形態は、研究上の問いの設定や、研究手法の設計、データの収集や分析、結果・成果の発信など、様々です。

5. 市民科学者は、その協力や貢献に対してプロジェクトからフィードバックを得ることができます。

例えば、自分が関わったデータがどのように利用されているか、研究、政策、または社会にどのような影響を与えたかについて知ることができます。

6. 市民科学には他の科学研究と同じように限界やバイアスがあり、それらを十分に考慮し制御する必要があります。

しかし、市民科学は従来の科学研究よりも一般の人々が研究活動に関わる機会を増やし、科学研究をより民主的なものにする機会を提供します。

7. 市民科学のプロジェクトは、データやメタデータを誰でも使えるように公開し、また、成果は可能な限り、アクセスに制限のないオープンアクセス形式で公開します。

データは、安全上または個人情報保護の点で懸念がある場合を除き、プロジェクトの期間中が終了後に公開されます。

8. 市民科学者の貢献は、プロジェクトの成果や出版物の中で明記されます。

9. 市民科学のプログラムは、科学的成果や、データの質、参加者の経験、広く社会や政策に与えた影響から評価されます。

10. 市民科学プロジェクトの主催者は、著作権や、知的財産、データ共有協定、守秘義務、データ等の帰属、そして、プロジェクトの活動が環境に与える影響など、様々な法的・倫理的課題を考慮します。

2015年9月、ロンドン

(邦訳2020年6月、千葉・東京・大阪)